

平成28年度岡山ESD推進協議会  
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 未来に生かす里山再生事業 ～南海トラフ地震に備えて～

団体名 就実・森の学校 担当者名 石田 省三

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

平成28年度 「就実・森の学校」 活動報告一覧  
28年度 イベント参加合計 2642名

日 時	活 動 名	対 象	人 数	備 考
1 4/10 (土)	古墳巡り	一般	10	
2 4/16 (土)	第1回竹炭焼成体験	一般	15	大型炭窯
3 4/24 (日)	春の訪れコンサート	全学・一般	450	出演団体8組・里山ハイキング
4 5/7 (土)	小学校遠足	小学生	80	
5 5/8 (日)	ノルディックウォーク	一般	30	主催:里山センター
6 5/19 (木)	ESDカフェ報告	一般	20	ESD活動報告(里山体験・植生・古墳)
7 5/24 (火)	里山ウォークin操山	中1, 中3	100	
8 6/5 (日)	日曜子ども大学	幼・小	350	主催:大学コンソーシアム
9 6/11 (土)	七夕会用竹灯籠作り	大学生	10	学内七夕会灯籠披露
10 7/10 (日)	フラダンスサークル	幼、一般	12	
11 8/8(月)	里山サマーフェスタ	小、中、高	50	
12 8/18 (月)	里山資源活用	高校生	60	朝日高校、竹炭焼成
13 8/25(木)	有森裕子キッズキャンプ	小学生	60	主催:RAITS.
14 9/11(日)	森のクラフト教室	小・中	15	竹細工・土鈴作り
15 9/25(日)	森の学校活用シンポ	大学生	10	教育学部生による活用研究
16 10/1 (土)	笠井山パトロール	一般	7	里山センターとの共同事業
17 10/8 (土)	三幡鉄道展示	一般	300	JR岡山駅前展示
18 10/16 (日)	古墳巡り	一般	7	笠井山南麓(整備)
19 10/21 (金)	ドングリ拾い	小学校	87	1, 2
20 10/30 (日)	秋の町はなフェアー	一般	200	西川アイプラザ
21 11/1 (火)	こども園ハイク	幼児	80	4/5
22 11/6 (日)	秋の里山実りのフェス	一般	200	里山センター主催、講演(石田)
23 11/12 (土)	福井ゼミ演習	大学生	19	森林資源調査
24 11/19 (土)	炭焼き体験(大型窯)	一般	10	竹炭・木炭
25 11/25 (金)	こどもえん陶芸教室	幼児	36	土鈴作り体験
26 11/26 (土)	竹楽器製作実習	大学生	60	教育学部音楽専攻
27 11/27 (日)	TSCノルディックウォーク	一般	50	TSC主催
28 12/4 (土)	社会学演習・中塚ゼミ	大学生	11	社会教育主事資格実習
29 12/18 (日)	バンブーハウス体験	小学生	65	クリスマスリース製作(同時開催)
30 12/21 (水)	小学校餅つき大会	小学生	88	
31 1/22 (土)	富山学区防災会議	一般	20	防災アンケート依頼
32 3/12 (日)	第7回アカマツ植林	一般	50	アカマツ下刈り
33 3/8 (水)	子ども園卒園ハイク	幼児	80	ごろごろ大師往復

## 2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

本活動を始めて6年目を迎える。本団体は敷地のおよそ7割を竹林が占めている学校林をフィールドとして、自然環境、資源、歴史遺産の保護、地域の変容などを調べる活動を目標に活動をすすめている。28年度は主に次の4点を重点目標として活動した。

### 1. 防災拠点・防災倉庫の整備

南海トラフ地震の危険性が叫ばれている。岡山県南の広大な干拓地には標高0m地帯が広がっており、東日本大震災級の地震が発生すると広範囲に液状化が起こり、数時間後にはおよそ3mの津波が押し寄せると推定されている。干拓地の北に位置する「就実・森の学校」では、かかる地震に備えて校地の一部を防災拠点（緊急避難地）として整備し、防災倉庫を設置するなどの対策を始めている。現在、倉庫には「森の学校」で生産した緊急時に使用する燃料（竹炭約300kg）、七輪、ヘルメット、スコップ、米など緊急用炊飯機器や水、食料などの備蓄を始めている。今年は1棟増え、備蓄物も徐々に増加している。この活動を通して地域の防災に少しでも役立つことが出来ればと考えている。

### 2. 歴史遺産の保護、教育活動

校地内には8世紀後半頃のものと思われる24基の古墳が存在する。「就実・森の学校」ではこの生きた歴史遺産を次世代に伝えるため生徒・学生と共に古墳の整備、保護活動をすすめている。一般参加の方も徐々に増加し、共に古墳の保護管理について検討しながら活動している。

### 3. 竹林を中心とした山林整備活動

校地内の竹林は、長く放置状態であったため、新旧の竹が入り乱れ、昼なお暗い状態となっており、分け入るのも難しいところが広範囲に残っている。「就実・森の学校」の整備の要はこの竹の間伐、整理である。28年度も整備活動を通して、里山のあるべき姿を生徒・学生とともに考えてきた。

### 4. アカマツ林再生活動

現代から未来に続く里山づくりをすすめていくためには、レクリエーションの森や、植生を調べる森など現代の若者が興味を持つ側面を作り出す工夫も必要である。アカマツ林の植林もその一つの試みで、生徒や学生達はかつての植生の再生と産物としての松茸の生産を期待しながら活動を続けている。平成27年度末で約4,000本のアカマツの植林が完了した。28年度は下草の除去を中心とする管理を進めることにしている。

本活動は生徒、学生を中心に、出来るだけ自然を活用した生活技術を習得し、防災につないでいくことを目的としているが、徐々にこの考え方が生徒学生に浸透してきているのではないかと考えている。今後も本活動を継続的していきたいと考えているが、後継者の要請も大きな問題だと痛感している。

## 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

今年度から本格的に始めた防災関連活動に対する一般の方々の関心は高く、特に岡山県南の干拓地に居住している方々からは、「就実・森の学校」の活動を是非継続的に進めてほしいとの声が多く寄せられている。このことをもとに28年度は次の3点を重点目標として活動を展開した。

1. 富山学区全世帯と富山中学校全生徒の防災意識調査（添付資料参照）  
実施は29年2月になり、現在集計中であり、やがて報告が出来るがこのアンケートを通して防災について考えるきっかけ作りになったことと思う。
2. 里山整備および避難地における防災設備（防災倉庫）の設置および充実  
防災倉庫が2棟となり備蓄物が充実してきた。しかし目標としている200名が3日間過ごすには水の問題等克服すべき課題は多い。
3. 避難経路の整備および避難案内表示板の設置  
経路の整備には多くの人員が必要で、まだ道半ばである。29年度は地域住民の方々と協働し進めていく予定。

## 4. 今後の課題と展望

里山づくりを始めて7年。各事業への参加者は増加の傾向にあり、里山への理解が進んでいるものと思われる。今後は他グループとの連携をすすめ、操山全体の里山再生をめざして活動を展開していきたい。

26年度からは防災を重点に事業を進めているが、今年度は29年2月に富山学区の全世帯（5,100世帯）、および富山学区の全校生徒（350名）を対象に防災意識のアンケートを実施した。集計には少し時間を要するが、防災意識を知ることが出来ると同時に、防災を考えるきっかけ作りになる物と考えている。またこのアンケート調査を通して、地域住民と話し合いを持つ中で、隣接する富山学区の海吉本村町内会および海吉中村町内会と防災協定を締結することが出来た。いずれの町内においても本活動を歓迎してくれており、今後は共に防災訓練を行うなどの話し合いを続けている。またこの協定の報道に接した近隣の町内会からも問い合わせが相次ぎ、活動の広がりを実感している。

今後は岡山市危機管理室、岡山県危機管理室等と緊密な連絡体制を確立し、緊急時の対応のモデルを作成していきたいと考えている。